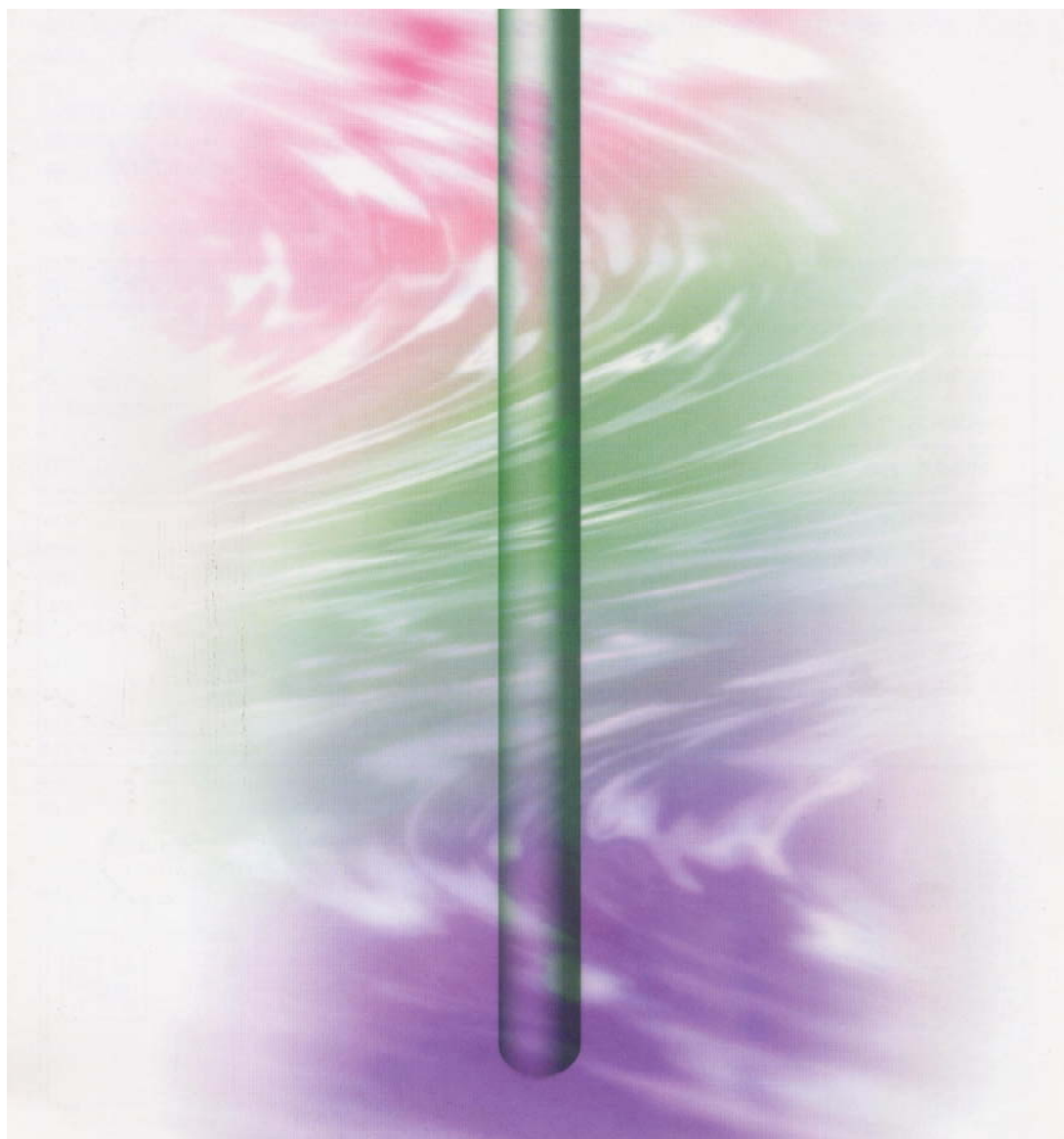


セ ン サ ー

2020年 1月号 第52号

東京温度検出端工業会 会報



令和 2 年の年頭にあって

2020年1月

会 長 林 正 樹

皆様、明けましておめでとうございます。本年も会の活動にご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

昨年は台風による大きな被害がありました。従来、国土計画で長年に亘って多額の費用を投じて十分な災害対策が行われてきたと思っていましたので、各地の河川がこれ程簡単に決壊するとは思ってもみませんでした。気象の専門家は、地球温暖化の影響で海水温が上昇しており、この程度の台風が毎年来てもおかしくない、と言っていました。財政が逼迫する中、この対策をどうするか、大問題です。オリンピックのお祭り騒ぎでいいわ、いいわで 2 兆円も支出している場合でしょうか。昨年、文科大臣の「身の丈」発言が問題になりましたが、国レベルでこそ、そろそろ「身の丈」にあったお金の使い方を考えた方が良いと思いますが、どうでしょうか。

年末にはカルロス・ゴーン被告が国内からレバノンに逃亡するという事件が起きました。それまでも裁判を控えていた被告が逃亡するという事件が数件起きていましたが、まさかあれ程の大物が国外へ逃亡するとは検察当局も思っていなかったのか、油断していたようです。

レバノンという思い出なのですが、筆者が社会人になりたての頃ですからもう、50年近くも前のことですが、大手商社に入社した友人と話す機会があつて、その彼は繊維製品を中東に売っていたのですが、レバノンとシリアは商売の相手として目茶苦茶に厳しい地域でタフ・ネゴシエーターが多く、ああ言えばこう言う、こう言えばああ言う、と何としてでも自分の方が有利になるように言ってくるので、辟易する、とのことでした。そのときは、そんなものか、と聞いていましたが、ゴーン氏の言動を見ていると、まさにレバノン育ちの面目躍如たるものがあると思われます。今回の逃亡劇も、ゴーン氏が理屈にならないような理屈を振り回して検察を煙に巻いて逃げ切ろうとしたのが、検察から理詰めの一つずつ逃げ道を塞がれ、これは逃げ切れない、と観念して国外に脱出した、といったところではないでしょうか。

今後はどうなるのか分かりませんが、ゴーン氏はレバノン政府の外務大臣と親しく、大統領は外務大臣の義理の父親ということで今のところは安心でしょうが、国そのものは政治が腐敗して財政破綻の危機にあり、一般庶民の特権階級に対する反発も強いようです。またイスラエルとは戦争状態が続いていて、イスラエルを訪問したレバノン人は軍事法廷に訴追される恐れもある、との報道もありますので、レバノンも決して安住の地ではないようです。

一方で日本の司法制度にも改めるべきところはあるようです。自白しないかぎり保釈されないとか、取り調べに弁護士が同席できないとか、先進国から見ると検察の権力が強すぎて、被疑者の人権がないがしろにされていると思われるようです。実際に厚生労働省の村木厚子氏が逮捕・起訴された障害者郵便制度悪用事件では、村木氏は否認し続けたため長期に亘って拘留され取り調べを受けましたが、検察の圧力に屈せず、最後には検察の描いた構図が破綻して裁判で完全無罪の判決を得られましたが、これは本当に希なケースだと思います。

ゴーン氏が逮捕されたのも、社内でゴーン氏一人に権力が集中して公私混同を許したためと考え

られます。矢張り強すぎる権力には、どこかで歯止めが必要です。

今年は11月に米大統領選挙があります。従来は米大統領選挙の年は景気が良くなると言われていますが、今回はトランプ大統領が選挙を意識した結果、米中貿易摩擦がどう動いていくのか、また対イランでどのようなことが起きてくるのか、全く予測がつかず、トランプ大統領に振り回される1年になりそうですが、どうかこの一年が災害のない、平和な一年であって欲しいものです。

それでは最後に会員会社の今年一年の益々のご発展と、皆様のご健勝を祈念して筆を措きます。業会の会員のお会社におかれましては益々のご発展を祈念して筆を措きます。



会員紹介

野本計器興業株式会社

当社は昭和 32 年、目黒で自宅と工場が一緒の戦後典型的な町工場として創業しました。

創業当初から、ユーザーと打ち合わせをしてどの様なものをどの様に温度を測り、どうしたいかを相談しながらセンサーを加工する工場として出発しました。

その後センサーの加工、修理、校正を生業として現在に至ります。

代表取締役社長 土屋 泰示

〒 357-0016 埼玉県飯能市大字下加治 32 番地

TEL : 042-983-0910

FAX : 042-983-0911

株式会社八光電機

昨年、電熱器の製造を開始して 75 年を迎えました。

1970 年に国内では数少ない熱電対の素線メーカーとなり、多種多様な用途に合った熱電対を今日まで作り続けて参りました。最近では、コンパクトなマグネット付熱電対や温度測定キット等の商品を市場に送り出しております。

現在当社の製品は、パイプヒーター単体から電動機や制御機器が組み込まれた熱風発生機、工業・農業向け電気炉の分野へと広がりを見せており、熱電対もそれらのオリジナル製品に組み込まれ、生産物や熱処理品の品質向上と抜群な安定性にその位置役を担っています。

これからも電熱器の総合メーカーとして、様々な製品製造の一助となる商品を提供して参ります。

営業本部 開発本部長 藤本 豊

〒 153-0051 東京都目黒区上目黒 1-7-9

TEL : 03-3464-8500

FAX : 03-3464-8539

<https://www.hakko.co.jp/>

林電工株式会社

1961年に創業以来、自動面積計、工業用電気炉等様々な装置類を開発製造して参りましたが、一貫して温度センサー製造を行って参りました。特に白金測温抵抗体の素子に関しては国内で唯一、巻線形素子、薄膜素子共に社内で開発、生産しております。2019年には新製品である極低温用測温抵抗体の開発にも成功し、好評を博しております。

接触式の測温抵抗体、熱電対の製造・販売だけでなく、非接触式の放射温度計の販売においても長年実績があります。お客様の要望を踏まえ、あらゆる角度から最適な提案が可能です。

半世紀以上に亘る経験に裏付けられた豊富な技術力で、広く産業界の発展を支えていきます。

代表取締役 林 正樹

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-5-5

TEL : 03-3945-3151

FAX : 03-3945-3130

<https://hayashidenko.co.jp/>

会の動き

- ◎平成 31 年 2 月 1 日 新春講演会 … 参加者 26 名（13 社・団体）
会場：貸会議室プラザ八重洲北口
内容：セカンドキャリアにおける地域貢献
講師：尾出 順氏
- ◎平成 31 年 2 月 1 日 新春懇親会 … 参加者 31 名（16 社・団体）
会場：日本橋いづみや
- ◎令和元年 6 月 7 日 第 45 期定時総会及び懇親会 … 参加者 22 名（14 社・団体）
会場：巢鴨 割烹山崎
議題①第 45 期事業報告及び収支決算報告
②第 46 期事業計画案及び収支予算案審議
③理事会任期満了による改選投票
新理事会社（五十音順）
石福金属興行(株)、(株)岡崎製作所、助川電気工業(株)、
田中貴金属工業(株)、二宮電線工業(株)、
日本ハネウエル(株)、林電工(株) … 全 7 社

◎令和元年 9 月 26 日 第 65 回技術懇談会 … 参加者 12 名（9 社・団体）
会場：東京都立産業技術研究センター墨田支所
第 1 部 見学会「日照環境試験室、サーマルマネキン等」
第 2 部 業種別交流会「業界支援と今後の取組みに向けて」

◎令和元年 11 月 6 日 一日見学会 … 参加者 20 名（12 社・団体）
見学先：①首都圏外郭放水路
 ②植物工場研究会

一日見学会報告

林電工株式会社 高松政也

2019 年 11 月 6 日、雲一つない秋晴れの日に行われた東京温度検出端工業会主催の一日見学会に参加させていただきました。

午前中に訪れたのは埼玉県春日部にある首都圏外郭放水路です。今回の見学会の案内が発表になった時には、台風 19 号、21 号の影響でフル活用を余儀なくされた後の首都圏外郭放水路を見学することになるとは思ってもみませんでした。

私は訪問するまでそこがどのような働きをしているのかをあまりよく知りませんでした。

首都圏外郭放水路は埼玉を流れる 4 つの小さな河川の氾濫を防ぐため、多い所では最大毎秒 100m³ もの水量を放水路に流し集め、水位を調節しながら江戸川に放水するための施設であり、集めた水を貯蔵するためにある大きな空間は地下神殿と呼ばれ、江戸川の水位を調節するのに大きな役割を果たしています。1 本の重さ 500t、合計 59 本の柱に支えられたその大きな空間はサンシャインビル約一杯分の水を貯めておくことができ、今回は大雨の後だったこともあり、ジメっとした空気の漂うまさに廃神殿のような雰囲気の間所でした。

地下に巨大な人工の川を作るという発想で海外のメディアでも取り上げられ、水害に悩まされてきた日本ならではの施設なのだと私も感動致しました。

10 月の台風の時には江戸川の危険水域にあと 1 m のところまできており、それは運用以来初めてのことだったそうです。

印象的だったのは、ガイドの方が「先日の台風の時はよく頑張ってくれた」と感慨深い表情でお話下さった場面で、我々の生活を守った喜びとこの設備で働く誇りを感じました。

現在、同じような施設を大阪にも建設中のようで、少しでも多くの人々が水害に悩まされることなく生活できるような場所が増えれば良いなと思いました。

午後は柏の葉にある植物工場研究会を見学しました。

主に水耕栽培による植物工場で、太陽光と人口光を使い季節に関係なく計画的に野菜や果物を育てる研究や生産を行っている実証施設です。

通常、農作物の栽培は気候に左右されやすく、年に決まった回数でしか収穫できないため、特に日本のような自然災害の多い国では、生産量は毎年不確実です。加えて農家の減少も不確実性を後押しする問題となっています。

室内の安定した環境の中で、温度・湿度・光などをセンサーによってコントロールし、安定供給を実現しています。それ以外にも給水量や栄養濃度についても調整を行い、安定的、高品質、多収

量を実現するための研究や実証を進めています。

いくつかの企業がこの施設を借りて共同で研究を進めており、そのノウハウをもとに事業を展開しているそうです。

外食産業では現在、自社で植物工場を持ち、提供する料理の全てを自社で賄うことを目指す潮流になってきており、不安定な食糧供給を防ぐためには当然の流れだと実感させられました。

あのセブンイレブンも以前この施設に相談に訪れたようで、サンドウィッチに挟むレタスへの品質要求が「味」ではなく「シャキシャキ感」だったというエピソードを聞いて、確かに我々がサンドウィッチのレタスに求めているものはあの歯ごたえだったと参加者全員が頷きました。同時に、虫一匹の侵入も許さないクリーンな環境で栽培を行うことで、無農薬、水洗い無しで出荷できるため安全で効率も良く、安定した生産量が見込める為、1円単位でのコスト管理が可能となり、ビジネスとしての利点も非常に大きいとのことでした。

一方では、栄養価の量を調節して、特定の病にかかっている人向けの野菜を病院向けに栽培しているところもあり、安価で安全という以外に、気づかぬうちに我々は食物に対して、それぞれが付加価値を求めていることにも気づかされました。

また、自社の製品を売る為に研究所の協力を得てビニール栽培全てをパッケージングして海外に売り込みをかける企業も出入りしており、ビジネスの様々な形が見られる大変興味深い施設でもありました。

全てをセンサーで管理することで、完璧な世界を作り上げることに成功している反面、そうせざるを得ない世界になった要因も少なからず我々にあることを考えると、皮肉な感じもしましたが、今後更にセンサーの無い世界では生きていけないという現実を改めて考えさせられる見学施設でした。

末筆ではありますが、今回このような貴重な機会を設けていただき、事務局関係者の皆様、見学先関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



外郭放水路地下神殿



植物工場研究会

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和の時代になり初めてのお正月は、いつもより長めのお休みだった方も多かったのではないのでしょうか。

今年のお正月のように穏やかで、できれば少しずつ景気が上向いてくれる年になってもらいたいものです。

本年が皆様にとってより良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



令和 2 年 1 月発行 No.52

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-5-5

林電工 株式会社 内

電話 03-3945-3151

FAX 03-3945-3130